

◇具体的取り組み例(利用者の本事業所における具体的活動)

→中学校 1 年生女子(特別支援学級知的クラス)による週 3 回のご利用を想定した具体例

利用者の様子…早寝早起きなど基本的な生活習慣は安定しており、小学校までは、文化祭で劇に出演するなど周囲にも積極的で、支援学級のリーダー的役割もしてきた。しかし、それ故か周囲とのトラブルも多く、その鬱憤を学校や放デイで指導者にぶつけることもあった。学力は、総じて小学校3年生程度だが、計算は得意で速く正確、一方、漢字やカタカナは苦手で自分の発する言葉と表記が一致しない事もある。保護者は、まずは日常生活で困らない学力(常用漢字が読め、買い物等での計算ができる等)を、バランス良く身に付ける事、また少女アニメが大好き等、得意な事から得る見識などを伸ばすし、苦手の友だち作りにも取り組める事を望んでおられる。

**1. 「個別対応」による学習支援**

- ① 小学校からの学習の引き続きとして得意の算数(分母の違う分数の足し算/小 5)に取り組む。  
→教材は市販の「教科書ワーク」を元にした、本人が楽しく取り組みやすく工夫したプリント(問題や説明文の漢字にルビ、ビジュアル的に考えられる図解、アニメキャラクターからの解説入り等)。
- ② 同じく小学校からの学習の引き続きとして、漢字の学習に取り組む。  
→教材は少女漫画を題材にした、キャラクターからの台詞や説明文の漢字を読み、今度はそれを覚えるプリント、また、空欄にした台詞の吹き出しに合う台詞を考え、作品中のキーワードを探す「読み取り」にも取り組む。
- ③ PC のタイピングや操作に取り組む(発語と表記が一致する取り組みも兼ねる)  
→大好きな少女漫画の様々なキャラクター画像を、インターネット検索で見つけ、その画像に自分で名前を付けてタイピングし保存、分類フォルダを作って整理する。

**2. 幅広い課題に取り組む「集団活動」**

- ① 同じ歳頃の仲間との活動を通じた、互いの悩みや考えの交流によって自分を見つめる。  
→ 2 人あるいは 3 人程度の少人数で取り組む時間を設定する。自己紹介から始まり、互いの趣味の紹介や趣味の交流、勉強の教え合い、調理や野外活動等の実習を継続し、だんだん指導者に頼らず自分たちで内容を決めて運営、進行して頂き、教師や指導員以外の同年齢の存在との良好で継続的な関係を築いて頂く。
- ② より広い年齢層の仲間との活動を通じた、社会性、柔軟性、リーダーシップの育み。  
→ 「イベント」の企画立案や準備を、仲間と共に、歳下の仲間には出品物や出し物の準備のリーダーとして取り組んで頂く。また、当日の司会進行原稿作りや練習を仲間と共に行う、イベント当日も、進行役等をこなし、後片付けも率先して行う等、活動の中心を担い、その難しさ、大変さを知る一方で、仲間の信頼や憧れを獲得し、謙虚さと自信を付けて頂く。

**3. 「個別支援」と「集団活動」の時間的配分**

どの利用者に対しても、まずは個別支援に重点を置き、集団の活動は個の状況や交流できる状況、イベント等の準備状況により適宜配分する。

→週 3 回ご利用の当利用者については、週 1 回、定期的に少人数の活動に取り組んで頂き(他の仲間との時間調整により)、その活動と兼ねて、或いは月 1,2 回程度、イベント準備の取り組み(より広い集団活動)を加えてイベントの中心的役割に取り組んで頂く。

**4. イベントについて**

月 1 回程度のイベントのうち、年 2 回程度(バラ祭、クリスマス※予定)は、地域の子どもや保護者とも活動できるような内容で取り組み、そのための取り組みとして上記 2 の②の活動を位置づける(バラ祭りに出店を出す、クリスマス会を地域の子ども会等へも呼びかけ参加を募る等)。

※月 1 回程度のイベントは、「利用者処遇」で述べたように、利用者の自立支援、創作活動、余暇の体験、地域への進出といった内容を、福山城や美術館、博物館見学、ローズコムとその公園内での活動、芦田川散策(バードウォッチング等)、市内の工場見学(エフピコ等)、地元商店街での買い物、ウィンドショッピング、音楽や美術、体操教室、理科の実験、地域の清掃美化活動等、必要に応じて講師、ゲストもお招きして取り組む。

## 5.利用者の「友だち作り」について

具体例に挙げた本人,保護者に限らず,「友だち作り」も切実な課題と考えられる。

→どの利用者にも,当事業所による年2回のイベント,通常のイベント,少人数による集団活動に,自分の学校や地域の友だちを連れてくる事を,個々の状況を見極めた上でお勧めし,それを実現して頂き,自信を持って周囲に自己開示できる逞しさを培う。

## 6.関係機関,関係者,ボランティアとの連携について

- ・上記の活動は,事業所内での取り組みだけで実現するものではなく,本人の家庭は勿論,利用者の通う学校の先生や他の放デイ,相談支援事業所,地域の町内会や子ども会,ボランティア等,利用者の繋がる子どもや保護者等とのコミュニケーションと信頼関係が必要です。
  - 利用者の学校での学習,生活の現状と課題を把握し,逆にこちらが把握している情報の提供によって,当事業所の支援内容のご支持,ご理解を学校から頂く,他の放デイに対しても同様の連携を図る,イベントの取り組みをはじめとした集団活動にあたって,その趣旨や内容を地域に発信し,ここでもご支持,ご理解を頂く取り組みを致します。これによって,「皆から支持され,見守られている」と思える安心感を与え,地域に出て行っても,同様に安心感を持って活動できるような環境を作ります。
  - 大きな課題である「友だち作り」は,互いの境遇や生い立ちや感性がより近い時,スムーズで自然に進むものと思います。当利用者が心を寄せる仲間も,ご自身の境遇により近しく,様々なしんどさを抱えているかも知れない事を想定しながら,私たちがその仲間のご家族や関係者とも繋がる努力をすることは,当利用者の「友だち作り」の支援にも繋がり,逆にこうした配慮なしで当事者だけに「友だち作り」を担わせることは,当事者に過度の負担を与えます。一方,学校であれば,同じクラスや学校の生徒ですし指導者も互いを知っていますが,私たちは彼らと直接の繋がりを持ち得ません。よって,ここでも学校や他の事業所,関係者,ボランティアといった「共通の支援者,仲介者」と私たちが繋がるのが,「友だち作り」への大きな支援に繋がります。
  - ・さらに,こうした豊かな繋がり,当利用者の「友だち作り」の支援となるばかりでなく,友だちご自身が,豊かな支援や支えを獲得することにも繋がります。
  - 友だちが,発達に課題を抱えるお子さんで,十分な支援を受けられてないとするれば,その方にも当事業所,他の事業書をご利用もお勧めし,体験授業等も受けて頂き,実際の利用者となって頂く,そのために支援や活動内容を前もって十分ご理解頂く,こうした「支援を広げる取り組み」もして参りたいと考えます。

### ◇より地域に根ざした事業所となるために－「地域枠」の設定

上記のことを具体的に取り組み実現するためには,当事業所自身が「地域に開かれ,地域の子ども達の居場所ともなる」ことが,最も周囲にも理解されやすく,繋がりも具体的に作りやすく,地域にも大きく貢献できる道筋と考えました。

- 休日,当事業所を地域に開放する,或いは平日,当事業所の一部を地域に開放する,それによって,地域の子ども達の「安心できる居場所」をご提供させて頂く。この運営を,私たちがお手伝いしながら地域主体で取り組んで頂き,ここを,受給者証のあるなしに関わらず,取り分け地域で不登校だったり不登校傾向になっていたり,生活的にしんどいお子様の居場所の一つとして頂く。
- この取り組み実現のため,地域の民生委員,児童委員さん,子ども会,町内会,ボランティアさん等,地域で実際に活動しておられる方々とも積極的に繋がりご協力を仰ぐ。その中で,地域の子どもの実情に沿った「地域枠」の具体的なあり方を探り,検討し,定期的で安定的な場のご提供を実現する。内容としては,子ども食堂,学習支援,遊びや交流(当事業所利用者も任意で参加しながら),講師を招いてのイベント等といったボランティア活動です。
- このような活動による人間的繋がりが,学校や他の放デイ等等,地域の教育福祉機関,関係者との連携を更に自然でスムーズに進め,もって地域の教育福祉の水準の底上げに繋がるものと考えます。